

質 問 書

1 新型コロナウイルスの感染症対策についての質問

(1) 差別・偏見・いじめの防止対策について

ア 新型コロナウイルスの感染が長期化する中で、連日の報道では、「正しく恐れよ」の「正しく」が抜けており、市民がいつまでも恐れや不安を抱くことで、感染者やエッセンシャルワーカー、その家族などに対する差別や偏見、いじめへとつながる事態は絶対に防がねばならない。このため、いじめの被害者や加害者にならないための対策は急務であるが、現状をどのように把握しているか。また、防止対策にどのように取り組んでいるか。

イ 先月、市民有志が知事に対し、新型コロナウイルスの感染者や医療従事者等の差別をなくすための運動として、シトラスリボンプロジェクトの普及活動の推進を申し入れたところ、積極的に取組に応じる姿勢を示したが、上田市も県と連携して、シトラスリボンプロジェクトの普及活動に取り組む考えはあるか。

(2) コロナ禍におけるメンタル支援について

ア コロナ禍により、メンタル不調を訴える人が出ている状況にあるが、次の項目についてはどうか。

(ア) 市民から医療機関などへ行った相談状況はどのように把握しているか。また、対策は行っているか。

(イ) 子どもたちのメンタル不調の状況と対策はどうか。

(ウ) 市職員のメンタル不調の状況と対策はどうか。

(エ) 市民や市職員のゲートキーパー養成の状況はどうか。

(オ) メンタル不調を予防するために、内閣府の自殺予防ゲートキーパープログラムに採用されている「メンタルヘルス・ファーストエイド」を市民に広く啓発してはどうか。

(3) 保育や子育て現場で働く人への慰労金の支援について

ア 全国保育協議会等の調査では、9割の保育士等がストレスの要因として、新型コロナウイルス感染症対策が続く中で、3密を避けることができず、子どもや保護者に感染リスクがあることを挙げるなど、保育現場従事者の心身の負担が増している。感染リスクの中で、職責を果たすための献身的な姿勢に報いることは重要であることから、一部の自治体では従事者に対して独自の応援金や慰労金を支給しているが、市の考えはどうか。

(4) コロナ禍での市長の姿勢について

ア 現在、上田圏域の感染警戒レベルが4という危機的な状況のため、市長のリーダーシップが問われる時であるが、多くの市民から、「記者会見では緊迫感が感じられなかった」、「クラスター発生現場への巡回は何を意図して行ったか」、「広報車での広報は高齢者には聞こえない」、「子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民に届く情報発信に努めてほしい」との意見が上がっている。このため、全職員が一致団結して難局を乗り越えるための姿勢を示すことで、市民に影響を与えていく必要があるのではないか。9月定例会の市長提案説明では、「市民に感染防止の取組を要請していく」との発言があったが、具体的にどのように要請していくか。コロナ禍を市民とともに乗り越える決意はどうか。